

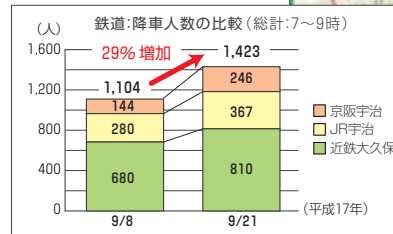
沿線地域の交通問題改善への取り組み

当社では、沿線自治体との連携を深め沿線の環境への取り組みに協力しています。

平成17年度からは宇治地域で実施している「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト 宇治」に、京都府、宇治市、地元企業、交通事業者のほか、NPO法人京都地球温暖化防止府民会議も参画し、宇治地域通勤交通社会実験を推進しています。

この実験では、宇治地域に勤務するマイカー通勤者向けに「通勤マップ」を作成、環境負荷低減への自発的な交通行動を促しました。実施後のアンケート調査の結果、通勤時間帯における鉄道利用者が増加し、周辺の道路混雑が減少するといった効果が確認されました。

宇治地域通勤マップ ▶



◀ 宇治地域における通勤交通社会実験の報告（宇治地域交通社会実験推進会議）

騒音・振動の低減

列車の走行によって発生する騒音・振動も当社の事業活動に伴って発生する環境負荷です。できるだけ騒音・振動を低減するよう、さまざまな対策を行っています。

また、新たな騒音振動低減技術を検討、検証する取り組みも行っています。

防音車輪

曲線通過時にレールと車輪の摩擦により発生するキシリ音を低減するために、ゴムリングを車輪にはめ込んだ防音車輪を採用しています。防音車輪は従来の車輪より15～20dB程度の騒音低減効果があります。平成10年度より使用を開始し、京阪線では平成19年度までに1900系を除く全車両（652両）に導入を完了、大津線では800系全車両に導入済みで、600・700形についても順次交換していく予定です。



▶ 防音車輪

CFRP製パンタグラフ

架線とパンタグラフとの摩擦により発生する騒音を低減するため、CFRP（炭素繊維強化プラスチック）製の集電舟を採用しています。従来のアルミ製集電舟に比べて架線への追従性が高いという特長があり、構造の見直しによる相乗効果で音圧レベルを低下させています。平成19年度までに京阪線では373両中68両、大津線では800系全車16両に導入しています。また平成20年2月より宇治線でカーボン系スリ板を試験採用し、騒音の低減に努めています。



▶ CFRP製パンタグラフ

ロングレール化

レールとレールを溶接することで継ぎ目を無くし、列車騒音特有の「ゴトンゴトン」といった継続音や振動を軽減しています。乗り心地の改善にも効果があります。



◀ ロングレール化

レール頭頂面の削正

平成13年より16個の砥石を搭載した保守用車（レール削正車）を導入し、レール頭頂面傷や凹凸を除去することで、騒音・振動を低減しています。



◀ レール削正作業

軌道の補修

日々の列車の走行に伴い、レールは少しずつ上下左右方向に変状します。変状が大きくなると、乗り心地の悪化や騒音・振動の増大につながるため、保守用車（マルチフルタイプンパー）による軌道補修を行っています。



◀ 道床突固め作業